

水戸地方気象台長からのメッセージ

水戸地方気象台ホームページにお立ち寄りいただきありがとうございます。

水戸地方気象台は、1896年（明治29年）12月16日に水戸測候所（二等測候所）として創立し、1897年（明治30年）1月1日より気象業務を開始しました。



現在も当時と同じ場所で業務を続けており、現在の庁舎は建築家の堀口捨己ほりぐちすてみにより（1957年日本芸術院賞、1969年日本建築学会大賞）1935年（昭和10年）に竣工し、2011年（平成23年）に発生した東北地方太平洋沖地震により建物に損傷を受けましたが竣工時の図面や写真をもとに改修され、現在も竣工時を再現した水平・垂直要素の対比的な建物となっています。

当台の属する茨城県は、農業、漁業、工業、科学技術、文化など多様な業種が盛んであるとともに、自然豊かな地に文化遺産が各地に遺されています。このような自然環境に、幾度となく気象災害や地震災害が発生し、近年では、2015年（平成27年）9月関東・東北豪雨、2019年（令和元年）東日本台風、2011年（平成23年）東北地方太平洋沖地震により被害を受けています。地球温暖化の進行により、21世紀末には気温が2℃上昇したシナリオでは1時間降水量50ミリ以上の雨は約1.9倍に増加すると予測されており、気象災害に対する備えをより強化する必要があります。地震災害についても、2022年（令和4年）3月16日には、宮城県・福島県にて震度6強、茨城県では震度5弱の地震を観測するなど、引き続き備えをしっかりと行う必要があります。

このような状況のもと、気象台では防災気象情報を発信するだけでなく、平時において県や市町村など地方公共団体と連携・協力して、地域の防災に関する普及啓発や職員の知識向上に努める取組みを強化しています。また、顕著な自然災害が発生または発生する可能性がある場合には、地方公共団体など関係機関に職員を派遣して、気象情報の提供や解説を行うことにより、関係機関の防災対応を支援しています。

気象台では、地域の防災力の向上に力を入れて取り組んでおり、職員一丸となって、関係機関と連携し、地域の方々から頼られる組織であり続けるよう取り組んでいます。

引き続き、水戸地方気象台の業務に関心を持っていただけたらと思います。

水戸地方気象台長
三井 秀夫